コラム　小学校教員が保育園研修から学んだもの

2010.11月

幼児は，幼稚園や保育園から小学校に移行していく中で，突然違った存在になるわけではない。大切なことは，子どもの育ちや学びを連続的なものととらえ，小学校への移行を円滑にすることである。そのためには，就学前に，幼稚園や保育園でどのような遊びや生活を通して，創造的な思考力や主体的な生活態度を身に付けてきたかを把握し，特に低学年ではこれまでの体験をさらに拡充し，具体的な体験を重視した学習活動を展開すること大切である。つまり，子どもの目線で子どもの生活を見て，子どもの側に立った学びを構成することが求められているのである。

そこで，夏季休業中に管理職も含め，保育園に研修に出かけることにした。勿論，１学期の当初から校長が保育園に行き，研修会の目的や計画，まとめ（レポート）について話し，了解を得ている。

確かに本校の教職員の保育園に対する意識は，この保育園研修で確実に変容している。今年度初めての教員は，園児の姿に驚き，昨年度経験者は園児の健やかな成長に驚嘆していることは，レポートからわかる。この夏季研修会のお陰で２つの保育園の考え「自然と遊ぼう」と小学校の思い「秋と遊ぼう」を融合して，「みんなで秋を楽しもう」という活動を紡ぎだしたことには大変意義深い。大きな所産である。園と小学校の互恵的な関係（Win－Win の関係）がないと，成果もなければ継続へのエネルギーも湧かない。

ある教諭は，「保育園との交流は特別な行事を組むのではなく，授業や集会あるいは給食等に参加してもらうことから始めては」と言っている。また，「昨年度までは年長児としてみんなのリーダーであった。もっと子どもの言動に目をむけながら，任せられる事は任せてみたい。」という感想もあった。実際の体験から出た誠実な思いでもある。これは，言葉ではよく聞くことであるが，「任せられる事」か見極めの際に多くの小学校教員は迷い，安全策を取るのではないだろうか。なめらかな移行は互いの保育や教育を認めることから始まると思う。

Win－Win の関係（互恵的な関係）を崩さないように，保育園と小学校の指導内容と指導方法の相互理解から，　11 月に予定されている「みんなで秋を楽しもう」をぜひ実現したいと考える。本校独自のカリキュラムを創るためにも。(芝)

新スタッフとの打ち合わせ

砂遊びを園児と

水遊びを園児と

給食指導も体験

園行事のスタッフとして